

平成25年第2回北海道議会定例会 予算特別委員会 開催状況（経済部観光局）

開催年月日 平成25年7月2日  
 質問者 民主党・道民連合 笹田 浩 委員  
 答 弁 者 観光振興監、観光局長、観光局参事

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>一 北海道新幹線開業を踏まえた地域振興について                      (一) 仮称新函館駅開業を見据えた道南地域での取り組みについて                      (笹田委員)                      昨年、北海道新幹線の札幌延伸が決定しましたが、先行する仮称新函館駅開業は平成27年度と目前に迫り、道南地域においては、まさに喫緊の課題として受け入れ準備が進められています。                      このことから、単に道南地域が直面している課題ということだけではなく、道や経済界なども一丸となって、まずは、仮称新函館駅開業準備を滞りなく進める必要があると考えるところでございます。                      道南地域では、経済界など地域が一体となった観光客の受入体制充実への取り組みが進められています。道としてはこれらの取り組みをまずどう捉えているのかお伺いをいたします。</p> <p>(二) 旅行スタイルの変化と観光振興策について                      (笹田委員)                      新幹線の利用はビジネスユースやレジャーユースなど様々ですが、受け入れ準備の大きなものとしては観光があげられます。                      観光については、既に言い尽くされているところもございしますが、旅行形態がこれまでのマストゥリズムからFIT、いわゆる個人自由旅行に大幅にシフトしてきています。                      新幹線が開業した暁にも、大量に輸送された旅行者の大多数は個人や小グループであり、道南を皮切りに北海道を楽しまれるものと想定されます。                      こうした旅行スタイルの変化をどのように捉え、今後どのように対応していくことが必要となるとお考えなのかお聞かせください。</p> <p>(三) 道南地域における観光振興の取り組みについて                      (笹田委員)                      答弁で認識を聞かせていただきました。道南の取組を着実に進めることが重要という認識と、さらに着地型旅行商品、情報発信、人材育成が必要との認識だと理解をしています。その認識で私も間違いはないと思っています。では、北海道としては何をどのように取り組むのか次にお伺いをしていきたいと思いますが、冒頭にも述べたように、道南地域においては、市町村単位、広域エリア単位で、仮称新函館開業に向けた観光振興策に取り組まれています。                      それらの取り組みは、個人旅行をメインとして、それぞれの地域の生活や産業など「まちの姿」を「見せる」、「体験させる」、「味合わせる」といったプログラムとそれらを提供するための手法を確立しようとするものであります。                      こうした取り組みは、観光による「まち全体の活性化」を目指すという新しい地域振興のスタイルでもあります。道が提唱する「食」と「観光」の方向性を先導していくものと思われませんが、道として、これらの地域の観光地づくりをどのように進めようとしているのかお考えをお聞かせください。</p>	<p>(観光局参事)                      地域の取組状況についてでございますが、道南地域では、渡島・檜山管内の関係行政機関や経済界が連携して策定した「新幹線開業に向けた道南地域アクションプラン」に基づきまして、現在、函館や環駒ヶ岳など4つのエリアで連携を強化し、観光情報のワンストップサービス拠点の形成や地域の二次交通の充実に向けた調査などの取組が行われております。また、函館では、商工会議所が中心となりましてセミナー・フォーラムの開催や、関東・東北地域でのプロモーション活動などが行われていると承知いたしております。                      道といたしましては、北海道新幹線の開業を契機として来道される方々に、本道の観光の魅力を満喫していただくためには、道南を中心とした地域が連携して、こうした受入体制の整備などを着実に進めていくことが重要と認識しているところでございます。</p> <p>(観光局長)                      新幹線開業に向けた課題についてでございますが、北海道新幹線の開業によりまして、北関東あるいは東北から道南地域へ多くの観光客の方々が来道されるものと予想しております。また、近年の傾向と相まって個人あるいは小グループの観光客の方々が増加すると考えられますことから、こうした旅行者のニーズにきめ細かに対応していく必要があるものと考えております。道といたしましては、こうした個人型旅行に対応していくためには、地域の埋もれた素材を活用した着地型旅行の商品づくり、あるいは地域の取り組みの積極的な情報発信、さらには質の高いサービスを提供できる人材の育成など、こうしたことを進めていくことが必要であると、このように認識をいたしております。</p> <p>(観光局長)                      道南地域における取組についてでございますが、道南地域におきましては、2年9ヶ月後に迫りました北海道新幹線の開業を見据えまして、訪れた方々が道南における滞在に満足していただけるよう、縄文文化遺跡など歴史的遺産の観光資源としての活用や、食と観光のブランド化など、新たな観光資源の発掘に取り組まれるとともに、東北地域や首都圏等における開業PR、さらにはイベントの開催などのプロモーション活動を実施することとしております。                      また、道におきましては、食と観光を連携させた「ワインとチーズをテーマとしたモニター・ツアーの造成」、あるいは「野鳥の観察をメニューとした旅行商品の開発」など、地域の取組を支援しているところでございまして、今後とも、何度でも訪れていただくための魅力ある観光地づくりに取り組んでまいりたいと考えております。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>(四) 観光による地域振興について (笹田委員)</p> <p>質問はこれで最後になるわけですが、具体的にはどうこうという話はないわけですが、魅力ある観光地づくりに取り組むという姿勢を確認できたということで、北海道としてもそれをしっかり取り組んでいただきたいと思います。</p> <p>目前に迫る北海道新幹線の開業などを例に挙げましたが、そもそも北海道内における観光振興のスタイルは先に述べたような取り組みが、今後一層主流となっていくと考えられます。</p> <p>道内各地でもそれぞれ同様の取り組みは行われていますが、この新幹線開業をきっかけに、新しい取り組みスタイルを確立させていくのも大切なことだと考えています。</p> <p>道南地域はまさしく、新しい観光振興のスタイルを確立させるためのモデルになるよう取り組んでいるところでもあります。</p> <p>こうした状況を捉えて、今後観光地づくりの先進事例になっていくよう、道として、こうしたモデル事例を丁寧に育て、しっかりと支援していく必要があると考えますが、どうでしょうか。</p> <p>(笹田委員)</p> <p>道南の取り組みをモデルに広く全道に波及していくとの力強いご答弁をいただきました。結果が出るのが3年後という難しい状況下で努力をされている道南の市や町、各関係関連機関の担当者の方々には、たぶん心強いものだと思います。今後も全国や海外へもあらゆる機会を通じて南北海道の魅力をPRしていただきますようお願いを申し上げまして質問を終わります。</p>	<p>(観光振興監)</p> <p>地域の取組に対する支援についてのお尋ねでございますが、平成15年度の民間調査機関による独自の推計によりますと、北海道新幹線仮称新函館駅開業後は、年間約350万人の方々の利用が見込まれるということから、新幹線開業の効果が最大限に発揮されるよう道南地域アクションプランなどによる地域の取組を着実に推進していくことが重要であると認識をしております。</p> <p>このため道では、自然や食、歴史・文化、さらには体験などの観光資源を活用いたしました着地型旅行商品の開発でありますとか、「広域観光ルート」の形成など、道南地域における滞在型の観光地づくりを進める取組を支援をしているところでございます。</p> <p>道といたしましては、今後とも、北海道新幹線の開業に向けまして、道南地域で進められている、こうした様々な取組をモデルとして、その効果を全道に波及させ、各地で地域が主体となった観光の魅力づくりが一層進むよう、振興局と一体となりまして、支援に努めてまいりたいと考えてございます。</p>